

■2010年2月4日付 朝日新聞朝刊に、
ネオボーンについての記事が掲載されました。

歯を支える人工骨開発

インプラント向け承認

歯を支える歯槽骨（あごの骨）が薄くなったり欠損したりした患者に、欠けた部分を再生させる人工骨の商品化に医療機器ベンチャーがこぎつけ、先月、厚生労働省から薬事承認を得た。インプラントの埋め込みが難しかった患者もこの人工骨を補填すれば可能になる、と関係者は期待する。人工骨は、エム・エム・テ

イー（大阪市）とコバレントマテリアル（東京都）が共同開発した「ネオボーン」。2003年に開発され、関節リウマチや骨粗鬆症などの治療では、1万5千例以上の実績がある。骨の主成分ハイドロキシアパタイトが主原料で、表面に気泡のような細かな空洞があり、骨の組織や細胞が入り込んで一体化する。

広島大学病院の治験では、患者23人に、0.5〜1ミリの顆粒状のネオボーンを補填した。半年後には周辺骨と一体化した。雑菌による感染症も起こさなかったという。

